

1996年に認知症介護の先進国デンマークに短期留学し、最先端の認知症介護を学び福岡県大牟田市でグループホームのホーム長として認知症介護現場で20年間携わってこられ、認知症になっても最期まで住み慣れた家で普通に暮らせる介護を実践されています。

今回は～認知症本人のメモリアルボックスの活用～について話して頂きます。

これから益々認知症の方が増加する中、最後まで住み慣れた場所での暮らしを支える事が重要になります、現在、日本の中で現場から認知症介護の実践を発信できる、大谷さんの講演を受けて、これからの認知症介護現場を支える人の助けになれば幸いです。